

佳作

知らん特攻平和会館をおとずれて

鹿児島県霧島市立国分南小学校三年 阿世知 沙来

わたしは、夏休みに知らん特攻平和会館に行きました。知らん特攻平和会館とは、「特攻」でなくなった人たちのしゃしんや、のこしていった手紙などがてんじされてある場所です。日本は昔、ハワイのしんじゅわんとマレー半とうをこうげきし、アメリカを中心とする連合国とせんそうがはじまりました。

日本は、「おきなわをまもるべきぼうえいのだいい線である」と考えて、さい後の手だんとして「特攻」という作せんを開しました。「特攻」とは二百五十キロのばくだんを付けたひ行きにパイロットがのったままてきの船に体当たりして、ちんぼつさせるこうげきのことです。パイロットは、全国から集められたわかい特攻たいいんでした。体当たりするといふ事は、特攻たいいんはかならずせん死してもどつて来ないといふ事を意味していました。知

らんのきちからは、四百三十九人の特攻たいいんが空にとび立っていきました。特攻たいいんは、自分がとび立つ場所や時間などをだれにもつたえてはいけません。さい後会いたい人たちに会えずにとび立つといふ事でした。たいいんのほとんどが、特攻に行く前にお母さんやお父さん、弟や妹、けっこんのやくそくをしていた人へ手紙を書いていました。どの手紙も文字はとでもきれいで、「行きたくない」「こわい」「死にたくない」。そんな事を書いている手紙は一つもありませんでした。わたしだったら、日本のためであっても家族のためであっても、こうげきにはこわくて行きたくないです。

今、ロシアとウクライナがせんそうをしています。せんそうは、人と人のけんかではなく、国と国とのけんかなのでかんとんに止めることはできません。せんそうなんかやりたくない人たちも、せんそうに行くとしたかつて、だれかをこうげきしなくてはなりません。そしてへいしではない子どもなど、かんけいのない人たちが毎日たくさんなくなっています。日本はわたしが生まれるずっと前からせんそうのない、せんそうをもう二どとしないとした平和な国です。今の平和な国があるのは、特攻たいいんな

どせんそうでなくなっていくた人たちがたくさんいるからです。知らん特攻平和会館をおとずれて、せんそうは、「悲しい」「くるしい」「悪い」「こわい」「さみしい」ととても強く感じました。知らん特攻平和会館には全国からどいた、たくさんの千羽づるががざつてありました。わたしと同じ気持ちで平和をねがっている人が、多くいるんだなと思いました。今の日本のように、地球上からせんそうがなくなり、みんながあたり前に平和になかよくくらししていく世界にしていきたいなと思いました。